

# Ⅳ 優良事例紹介

## 1 栃木県

### 加蘇地区ふるさとづくり協議会

#### 団体概要

- ・協議会は広報PR、大滝整備、歴史文化、公共施設清掃、おもてなし等を担当する各部会に分かれ、活動を行っている。顔を合わせた会議のほか、LINE等のSNSを利用して組織内でのコミュニケーションを図っている。

#### 活動地域

- ・栃木県鹿沼市加蘇地区
- ・上久我地区大滝
- ・石裂山 ほか

#### 地域資源

- ・大滝 ・石裂山 ・農地

#### 会員数

- ・40名  
(その内40代以下の若手が約半数程)



#### 設立の経緯

約30年前加蘇地区では、農業の兼業化が進み、生産者の高齢化、過疎化などにより、農村らしさや地域の連帯感が薄れつつあった。危機感を持った加蘇地区の40代前後の住民15名が集まり、地域おこし活動を始めた。

現・加蘇地区ふるさとづくり協議会会長の小林氏が中心となり、むらづくり推進協議会を立ち上げ、地域農業の振興と地域活性化に取り組んできた。地場産農産物に付加価値をつけて販売し、元気のある農業を展開するため、地域に野尻直売所を開設。初年度から経営は順調に推移し、売り上げは10年で約10倍にまで成長した。

その後、むらづくり推進協議会は、新たに加蘇地区ふるさとづくり協議会に姿を変え、地域活性化に取り組んでいる。

現在、協議会には、子どもの頃から加蘇地区で育ってきた若者や、都市部から近隣の分譲地に移住してきた方が加わるなど、地域内における良好な連携体制をつくることができている。



滝つぼカフェ

## 活動紹介

### 地域資源である大滝

地区の自然を活かし若者を意識したプロデュースにより、若い世代〈カソトモ〉を呼び込んでいます。

### カソトモとは？

イベントを通して、自然が好きな方、加蘇に興味のある方、加蘇と友達になりたい方、加蘇に暮らす方。自然で自然に出会うステキな出会いのイベントでカソトモを大募集！

### 加蘇コミュニティセンターで実施

地元の農家が体験指導者（インストラクター）を務めました。地域内の和菓子店の協力も得て実施しました。



餅つき体験



鹿沼市加蘇地区  
ふるさとづくり協議会  
会長 小林 俊明氏

### ■日頃から大切にしていること

地域の方々とのコミュニケーションを大切にしています。地域の人々が仲良く交流し、会話することで地域内の連携が自然とできると考えています。地域が平和に、皆仲良く、地域づくりをしていくこと。地元のみならず地域外から訪れる人とも良い関係をつくれるように。イベントを通して仲間意識を築いていければよいと思って活動しています。

協議会活動にかかわってくれる若者に対し、過度な負担はかけない、無理強いほしくない、適度なかかわりを保つなどの配慮を心掛けています。

私は幼少時に地域の人たちのあたたかさを感じて育ってきました。そして、困ったときには助けてくれる人がいました。大人になり、地域に貢献し、当時の恩返しをしたいという思いが今の活動の原点です。

### ■活動を通して 変化・良い点・課題など

協議会活動には若手が多く参加しています。若い人の意見を聞くと張り合いがでて、目に見えないパワーが生まれます。若い人の意見をできるだけ聞いて、取り入れるようにしています。若い世代とのつながりは協議会に活気が生まれ、若者の企画力を活かすことができます。これからの若手の実行力に期待しています。

### ■地域の将来への展望

加蘇地区にも少子高齢化の波は押し寄せています。現状では若い人たちが地域から出て行ってしまうので、環境の良い加蘇地区に雇用を生み出すことができたらよいと考えています。

# NPO法人 太平山南山麓友の会

## 団体概要

- 平成19（2007）年8月設立。栃木市大平町西山田地区にある3つの自治会に所属する地元住民によって組織される。体験農園のオーナー制度や太平山南山麓の環境美化活動等を行っている。栃木市大平町の野外活動施設「かかしの里」を管理・運営。平成26（2014）年度豊かなむらづくり全国表彰事業農林水産大臣賞受賞。平成30（2018）年度山の日全国記念式典、環境大臣表彰受賞。

## 活動地域

- 栃木県  
栃木市大平町  
西山田地区

## 地域資源

- 太平山
- ぶどう団地

## 会員数

- 60名弱



## 設立の経緯

西山田地区では、昭和40年代から土地改良事業と広域農道の整備が行われ、大規模なぶどう団地が形成された。ぶどう狩りを楽しむ多くの行楽客でにぎわったが、若者の都市部への流出による過疎化や高齢化が進んだ。

太平山南山麓の美しい景観の保全と西山田地区の活性化を目指し、自分たちの地域の自然は自分たちで整備しようと、地元の有志が集い、平成17（2005）年に「西山田地域活性化研究会」を発足した。太平山南山麓の緑化・美化活動に取り組みながら、大平町の野外活動施設「かかしの里」の管理受託を機に、平成19（2007）年に大平町ではNPO法人認証第1号となる「NPO法人太平山南山麓友の会」を設立した。

林道の修繕などハイキングコースの整備では、地元企業山岳部OBと協力し、ぶどう栽培ではワインづくりをやりたいという地域外の希望者を受け入れるなど、地域外の人々とも協力しながら活動をしている。

## 活動紹介



おおひらの七富賜技 (ななふしぎ) 体験



畑で収穫中



緑化美化活動 [アジサイ]

### 地元の農園

太平山南山麓で古くから語り継がれる大中寺七不思議伝説にちなんで、七種類の農産物を利用した収穫体験プログラムを組んでいる。年間を通して種まきから収穫までを行い、焼きいも、バーベキューなど「食」の体験も行っている。

### 太平山南山麓周辺

太平山の環境美化、ロウバイの植栽、アジサイの剪定やハイカーの安全確保のための整備活動、救助が必要になった時に利用するレスキューポイントの設置活動をしている。



NPO法人  
太平山南山麓友の会  
理事長  
藤野 晴彦 氏 (中央)  
副理事長・事務局長  
猿山 昌幸 氏 (右)  
事務局  
柴田 晃 氏 (左)

### ■日頃から大切にしていること

訪れる方たちには太平山の自然を見てもらい、のんびりしてもらいたい。ストレスのある社会から離れ、ゆっくり過ごしてもらいたい。その思いで活動を行っています。新緑の季節には「山が呼吸しているよう」、「いつ見てもこの山はいいよな」と語る方もおられました。「とにかくここはきれい。住んでいる人がそう思うのだから、訪れる人もきっとそう思うに違いない。」と地元の方は地域への誇りと愛にあふれています。

### ■活動を通して 変化・良い点・課題など

60名弱集まると各自いろいろと得意なことがあるので、それを生かして活動しています。NPO化により、受けられる仕事、活動の範囲が広がりました。太平山を訪れるハイカーから「ごくろうさま」と声をかけられることもあり、やってよかったという気持ちになります。この地域でぶどう栽培等の農地を利用したい、かかしの里を活用したいという方がいれば、お手伝いしたいと思っています。地域の若者は平日の活動が難しく、若者の参加が課題です。

### ■地域の将来への展望

ぶどう農家は重労働であり、若い人にも受け入れられるような収益性とのバランスの取れた農業を探っていきたいです。農作物を生かした6次産業化やワイナリーづくりを考えています。「食べる」「観る」「体験する」を組み合わせ、集客が見込めるような「ぶどうの里」のような拠点を作りたいです。現在、地域内に「ワイワイテラス」という40～50歳代中心の団体が発足しました。彼らとともにさらに地域を盛り上げる活動を続けていきます。

# 小砂village協議会

## 団体概要

- 平成26（2014）年3月設立。小砂地区コミュニティ推進協議会を前身とする。平成25（2013）年10月に「日本で最も美しい村」連合に加盟・承認された。那珂川町小砂地区を中心に、農家民宿やイベントを実施している。那珂川町役場や町観光協会、旅行会社と連携しながら、地域の8集落が協力し地域づくりを行っている。令和元（2019）年度農林水産省「豊かなむらづくり全国表彰事業」関東ブロック農林水産大臣賞受賞。

## 活動地域

- 栃木県那珂川町  
小砂地区

## 地域資源

- 小砂焼
- 棚田
- 農地

## 会員数

- 32名
- 役員7名



## 設立の経緯

小砂地区は昭和63（1988）年から地区住民の協働による美しく住みよい地域づくりのための「コミュニティ推進協議会」を運営していた。小砂地区にある温泉「美玉の湯」の支配人が、「フランスの最も美しい村」に在住中、その風景が小砂地区と似ていることに気付き、小砂地区を「日本で最も美しい村」連合へ加盟させることを提案した。協議会は「加盟を推進する会」を設置し、平成25（2013）年10月には「日本で最も美しい村」連合へ加盟を果たす。加盟を契機に協議会の名称を「小砂village協議会」と改める。現在は小砂ならではの美しい原風景、農村の営み、小砂焼を源流とする芸術活動を生かし、住民が協力しながら地域活性化に向けて活動を続けている。

## 🇫🇷 「フランスの最も美しい村」

1982年にフランスコロンジュ＝ラ＝ルージュ（コレーズ県）で設立された協会。質の良い遺産を多く持つ小さな村の観光を促進することを目的とする。NPO法人「日本で最も美しい村連合」は「フランスの最も美しい村」を参考に設立された。



農家民宿

### 小砂地区の農家民宿

教育旅行（修学旅行、林間学校）の一部として2泊3日での受入れが多いです。小砂地区を中心に農家が少人数毎に学生・生徒を受け入れ、農村の家庭的な暮らし体験を提供しています。

## 活動紹介

### 小砂地区の里山

地域おこし協力隊として県外から移住してきた若者が中心となり、町役場の協力を得ながら実施しています。



トレイルラン



棚田オーナー制度



小砂village協議会  
会長  
笹沼 亨一 氏 (右)  
事務局長  
藤田 悦男 氏 (左)

### ■日頃から大切にしていること

地域づくり活動には女性の協力が不可欠であると感じています。ここでは協議会活動を通じて地域の女性たちが活躍しています。

農家民宿では那珂川町や旅行会社が間に入り、事前に農家側と宿泊者側の情報交換をして信頼性を担保しています。そうすることで受入れ側も安心して宿泊者を迎えられるます。

### ■活動を通して 変化・良い点・課題など

当初は「小砂にとって協議会活動が何になるのか」と、活動方針に疑問をもつ住民もいましたが、今では小砂village協議会が何をしているのかを知らない者はいないほど、理解が得られています。小砂地区はメディアへの露出も多く、新聞、町広報誌、ケーブルテレビ等で広報活動が行われています。また、子どもたちを受け入れた農家の方からは「自分の孫のよう」「お別れの時は涙が出た」と、農家民宿に生きがいを感じているとの声も多く聞かれます。小砂village協議会の活動は地域の方々のやりがいにつながっています。

### ■地域の将来への展望

「自立」が「美しい村」のスタンス。20~30年先を見据え、小砂地区が独立してやっていけるだけの収益を上げていきたいです。小砂地区でも少子高齢化が進んでいます。地域づくりの活動を継続するためにも後継者の育成が必要です。後継者を育成し、地域づくり活動の「代替わり」をしていきたいです。

## 2 国・他自治体

農林水産省HPには、全国の農泊の先進事例をまとめた農泊プロセス事例集が掲載されています。

<https://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/attach/pdf/170203-24.pdf>

